

## 北京オリンピック・パラリンピック観戦記

下関市立川中小学校 教頭 尾山善昭

(平成18年度派遣 中国 北京日本人学校)

### 1. はじめに

みなさんは、スポーツ観戦が好きですか。私は、プロ野球やサッカー、柔道やラグビー、マラソンや駅伝など、テレビで放送されるいろいろなスポーツをよく観戦している。一方、ライブでのスポーツ観戦といえばプロ野球観戦ぐらいしかない。若い頃は広島市民球場、2000年以降はマツダスタジアムや甲子園球場など、タイガース戦を中心によく通っている。

そんな私だが、平成18(2006)年4月から平成21(2009)年3月までの3年間北京日本人学校に勤務した3年目の2008年、北京オリンピック・パラリンピックが在勤地で行われるという幸運に恵まれた。

オリンピック開催前年の2007年から、チケットの予約申し込みが始まったが、家庭当たりのチケット申し込み競技数が制限されていたため、家族で相談した(ほとんどは私の意向だった)結果、

- ・柔道女子谷亮子選手が間違いなく金メダルを取る予想した柔道女子48kg級決勝
- ・プロ野球選手の出場が初めて認められ、予選リーグ(全チームの総当たり)でキューバには敗れても、間違いなく2位で決勝リーグに上がってくると予想した野球の2位チーム対3位チームの準決勝戦
- ・家から歩いて10分のスタジアムで行われる男子サッカーの準決勝

を購入することにした。幸い、中国人に関心が薄かったのか、柔道や野球は見事ゲットできたし、サッカーはスタジアムの収容人数が多いので、これもゲット。尾山家は希望したチケットをすべて手に入れることができた。

また、夏休みになり、オリンピックが開催されるころになると、中国人に不人気(?)だと思われた競技のチケットが余っている関係で、北京日本人会からチケットの購入依頼が日本人学校教員にあり、希望者がいくつかの種目のチケットを購入することができた。それゆえ、北京日本人学校の夏休み期間中に行われたオリンピックはほぼ毎日、夏休み明けに行われたパラリンピックは土日を中心に観戦することができた。なお、パラリンピックは、当日券の購入で観戦することができた。

### 2. 観戦記

○オリンピック

(1) 8月7日

【男子サッカー予選リーグ 日本対アメリカ】

競技日程がかさむサッカーでは、しばしば開会式前から競技がスタートする大会をよく目にする。北京オリンピックも同様で、翌8日の開会式前日の7日に天津市で日本戦が行われるということで、新たに開通したばかりの高速鉄道で天津に向かった。北京からの所



要時間は30分しかかからず、「のぞみ」に乗って新山口から広島に行くようなイメージだった。

試合結果は、1 - 0で惜敗。しかし、当時はよくわからなかったが、数年後にサイトでメンバーを確認すると、本田、長友、香川など2010ワールドカップ南アフリカ大会の主要メンバーが出ていたと知り、非常に驚いた。



向かって左が日本

(2) 8月9日【柔道女子48kg級3位決定戦・決勝】

「田村で金(2000年シドニーオリンピック)、谷で金(2004年アテネオリンピック)、ママになっても金」と言って臨んだ北京オリンピックでは、私に限らず、日本人いや世界中の多くが彼女が金メダルを獲ると思っていたと思う。



会場に入ると、敗者復活戦が行われていた。しかし、「えっ、目の前にいるのは谷亮子！決勝戦に出るんじゃないの？」辛うじて勝ち上がって銅メダルを獲得したが、2試合勝ったことを喜んだというより、金メダルでなかったという落胆の方が大きかった。

(3) 8月13日【男子サッカー予選リーグ  
ナイジェリア対アメリカ

&アルゼンチン対セルビア】

2試合観戦できたのはラッキーだった。北京オリンピックではアルゼンチンが金メダル、ナイジェリアが銀メダルを獲得したので、結果的に、北京オリンピック優勝準優勝チームのサッカーを観戦したことになると同時に、日本との格の違いを痛感した。



白アメリカ、緑ナイジェリア

(4) 8月14日

【女子ソフトボール予選リーグ 日本対オランダ】

初めて、女子ソフトボールの試合を観戦した。レフトスタンドからの観戦だったが、ソフトボール専用の球場だったので、スタンドから選手までの距離が非常に近く感じた。



赤が日本

なお、前年、北京日本人会主催の職場対抗ソフトボール大会があり、この球場でプレーさせていただき、優勝できたのはよい思い出になった。

(5) 8月15日【柔道女子78kg超級・男子100kg超級予選】

塚田真希選手が出場した女子78kg超級と石井慧選手が出場した男子100kg超級の予選を観戦した。両選手とも2回戦から出場したが、塚田選手の3回戦と石井選手の2回戦を観戦した。

両選手ともに順当に勝ち上がり決勝まで進んだ。結果は、石井選手が金メダル、塚田選手が銀メダルを獲得した。



抑え込んでいる青が塚田選手



白が石井選手



(6) 8月16日【女子ソフトボール予選リーグ オーストラリア対オランダ】

日本以外の国同士の試合の観戦は初めてだった。よって、日本戦のように1プレー1プレーに一喜一憂するということがなく、冷静な目で観戦したように思う。

＜右上の写真は、近くの席で盛り上がっていたオーストラリア人の集団＞

(7) 8月17日【女子マラソン】

北京オリンピックメインスタジアム(通称：鳥の巣)の中に入れるということで、家族みんなでわくわくしたのを覚えている。スタジアムでのマラソン観戦なので、当然、スタートとゴールしか見ることができない。朝早いスタートには間に合わなかったが、日本人選手の入賞を信じてゴールを待った。2000年シドニーの高橋選手、2004年アテネの野口選手の金メダルに続く、日本人選手の入賞を期待したが、北京オリンピックでの成績は振るわなかった。



(8) 8月18日【女子ホッケー予選リーグ 中国対オーストラリア】

アイスホッケーは、何度もテレビで観戦したことはあったが、ホッケーの観戦は初めてだった。中国人の観客は、どこの国の選手であっても熱心に応援していたが、やはり自国の試合となると熱の入りようは尋常でなかった。

(9) 8月19日【男子サッカー準決勝 アルゼンチン対ブラジル】

予選リーグと違って、決勝リーグの対戦国が分からない状態でチケットを購入したが、アルゼンチン対ブラジルという、一生のうち、生で見ることは今後二度とないであろうという夢の対戦になった。しかも、メッシ(アルゼンチン)とロナウジーニョ(ブラジル)の世界的大スター二人の対戦が見られるとあって、非常に興奮した。



結果は、ピッチを縦横無尽に走り回り、アルゼンチンの勝利に貢献したメッシと動きが悪かったロナウジーニョの差が出て、アルゼンチンが勝利した。アルゼンチンは結局北京オリンピックで優勝した。

(10) 8月22日【女子ハンドボール準決勝 中国対ノルウェー】

ハンドボールも何度もテレビで観戦したことはあったが、実際の試合観戦は初めてだった。

(11) 8月22日【野球準決勝 キューバ対アメリカ】

日本は、当時世界最強と言われたキューバに予選リーグで勝てなくても他の国には負けないで2位で予選リーグを突破してくると予想していたが、予選リーグの結果は、1位韓国、2位キューバ、3位アメリカ、そして日本は4位で通過してきた。したがって、我々が観戦できたのは、キューバ対アメリカの対戦になり、日本戦の観戦はできなかった。



日本戦の観戦はかなわなかったが、キューバとアメリカの野球は、パワー対パワーの野球で非常に見ごたえがあったという点では非常によかった。結果、キューバが圧倒し決勝戦に進んだ。一方日本は、準決勝で韓国に敗れ、3位決定戦でアメリカにも敗れ、4位に終わった。

(12) 8月23日【陸上各種目決勝】

陸上競技の決勝の観戦。当時陸上界一の大スターであるウサイン・ボルトが出場するようなレースなどは、なかなかチケットが手に入らなかったようだが、当日の種目は覚えていないが席はそれほど詰まっていなかった。スタジアムのかなり高いところだったので、「あちらで～をやっている」「こちらでは～をやっている」という感じでのんびりと観戦した。



スタジアムに入った直後、遠くで入賞セレモニーをやっていて、よく見ると、男子の400mリレーで、日本の4人が3位の表彰台に上がっている時だった。(日本はその後、ジャマイカの金メダルがはく奪されたことにより、銀メダルに昇格している) <右上の写真は、スタジアムの大画面に映し出されたところ>

○パラリンピック

オリンピックが北京日本人学校の夏休み期間に観戦できたのに対し、パラリンピックは2学期が始まってからの開催だったので、観戦は週末に限られた。しかし、逆に、北京日本人学校では、平日に授業の一環としてパラリンピック観戦を実施することができた。

これまで、全く観戦したことのなかった障がい者スポーツだったが、レベルの高さ、激しい動きなど思い切り圧倒され、「人生に不可能はない」という思いを強くすることができた。

(1) 9月7日【女子車いすバスケットボール 日本対中国】

《種目の説明》下肢などに障がいのある選手が、競技用車いすを巧みに操作しながらプレーするバスケットボール。使用するコートやリングの高さなどは一般のバスケットボールと同じで、激しい攻防やスピーディーなパスワークが魅力。1960年にローマで開催されたパラリンピック第一回大会から実施されており、現在でも最も人気のある競技のひとつ。

(<https://www.parasapo.tokyo/sports/wheelchair-basketball> より引用)

初めてパラリンピックをライブで観戦した。バスケットボールでは接触プレーは

禁じられているが、車いすバスケットボールでは激しい接触プレーが当たり前のように行われ、その激しさに圧倒された。また、自分との比較というのは大変失礼な話であるが、身長が180cmの自分でさえ、シュートしてもなかなか決まらないのに、車いすに乗っておられる選手がかなりの高確率でシュートを決められるのにも非常に驚かされた。



日本対メキシコ戦

(2) 9月8日【女子車いすバスケットボール 日本対メキシコ】

北京日本人学校の行事として観戦した。北京日本人学校では、小学部低学年と高学年が車いすバスケットボール、小学部中学年が水泳、中学部が陸上と、ブロックごとに各会場に行き、児童生徒にパラリンピック観戦を体験した。私は5年生担任ということもあり、子どもたちといっしょに車いすバスケットボールを観戦した。



(3) 9月14日【男子ゴールボール カナダ対デンマーク】

《種目の説明》視覚障がいのある選手がプレーするゴールボールは、パラリンピック特有の競技。鈴の入ったバスケットボール大のボールを互いに投げ合い、得点を競うチームスポーツだ。コート上の選手は3人。選手は障がいの程度に関わらず、「アイシェード」と呼ばれる目隠しを装着し、全盲状態でプレーする。試合時間は前後半各12分の計24分。

(<https://www.parasapo.tokyo/sports/goalball> より引用)

競技の性質上、静寂間に包まれた中で観戦した。守備側の選手は、ボールの中にある鈴の音だけを頼りに、相手チームのゴールを体全体使って防ぐ。単純な競技のように見えて、なかなか難しい競技に思えた。

(4) 9月15日【水泳(種目は不明)】

《種目の説明》日本がパラリンピックでメダルを量産してきた競技と言えば水泳だ。機能障がい、視覚障がい、知的障がいなどの選手が活躍している。とはいえ、ひとくちにスイマーと言っても、障がいの種類もレベルもそれぞれ異なるため、あらかじめクラス分けされたクラスの中でタイムを競い、順位を決める。なお下肢に障がいのある選手は飛び込みが難しいため、水中からのスタートが認められている。



(<https://www.parasapo.tokyo/sports/swimming> より引用)

パラリンピック水泳をテレビで観戦したことはあったが、実際に会場で見たのは初めてだった。いろいろな種目を観戦したが、様々な障がいをもった選手を目にするにつけ、国籍に関係なく全ての選手に拍手を送らせていただいた。

(5) 9月15日【男子車いすテニス決勝】

《種目の説明》ツーバウンドでの返球が認められている以外は一般のテニスの競技ルールのまま行われるのが車いすテニス。男女別のシングルス、ダブルスのほか、障がいの程度が重く、男女混合のクアードクラスも実施されている。握力が弱いため、テーピングでラケットと腕を固めるなどしてボールを打ち返す選手などもある。

([https:// www.parasapo.tokyo/sports/wheelchair-tennis](https://www.parasapo.tokyo/sports/wheelchair-tennis)より引用)



午前中の水泳観戦に続き、会場を移動し観戦した。今なお世界の第一線で活躍しておられる国枝慎吾選手の試合、しかも決勝戦ということもあり、家族一同心躍らせながら会場に向かった。我々の期待通り、国枝選手は見事金メダルを獲得、ダブルスとともに2冠を達成した。



オリンピック、パラリンピックを通じて、国歌が流れる中センターポールを国旗が掲揚されるのを実際の会場で見るとは初めてだったので、涙が止まらなかった。

○ジャパンハウス

北京オリンピック期間、日系のホテルニューオータニ（中国名：長富宮飯店）で日本オリンピック委員会（以降JOC）が毎日のように「ジャパンハウス」と呼ばれる展示や催しを行っていた。中には、2016年に向けてオリンピックの東京開催（ご存じの通り実際はかなわなかった）を目指す応援コーナーもあった。生活していたマンションからも近かったこともあり何度も足を運んだ。



日本人学校の児童生徒が招待されることも多かったが、出演予定でなかった児童生徒もステージに上がるよう促されることも多くあり、JOCが子どもたちの夢を応援していると感じた。

選手や関係者も多く来場されるので、たまたまではあるが、瀬古俊彦さん、有森裕子さん、福原愛さん、山下泰裕さん、岩崎恭子さん、矢野燿大さん、新井貴弘さん等と会話したりいっしょに写真を撮らせていただいたりしたのもよき思い出である。

いくつかのイベント体験を紹介したい。

(1) 8月11日【日本人学校4年生による応援メッセージ】

夏休みに入り、いきなり北京日本人学校にJOCから連絡があり、来場してJOCの応援ソングを歌ってほしいと依頼が入った。帰国せず北京に残っていた4年生が出演することになり、担任が早速4年生全家庭に電話して回った。集まった児童のみの出場になったが、出場した児童にはよい経験になったようである。



(2) 8月17日【野球星野ジャパン】

予選リーグの最中、ジャパンハウスに野球チームがやってきた。この日は、星野仙一監督、山本浩二コーチ、大野豊コーチ、杉内、和田、ダルビッシュの3投手が出演された。ダルビッシュ投手が自分の失投を悔いて頭を丸刈りにしている。北京日本人学校小学部児童が勝利を願って作った千羽鶴に、星野監督が非常に感激され、今後の活躍を誓われたのが印象的だった。



(3) 8月22日【女子ソフトボール金メダル】

期待通り金メダルを獲得した女子ソフトボールチームから、斎藤監督をはじめ選手全員が出演した。<斎藤監督が手にしているのは、北京日本人学校中学部生徒が渡した6月に来校された際の写真が写っているパネル>



(4) 8月23日【陸上男子400mリレー】

オリンピックで初めて400mリレーで獲得した銅メダル(当時)メンバーが、メダル獲得翌日に早速出演してくれた。<左から1走塚原、2走末続、3走高平、4走朝原の各選手>



○北京日本人学校におけるオリンピック・パラリンピックに関する取組

北京オリンピック・パラリンピックが開催される都市にある日本人学校として、「これを活用しない手はないぞ」ということになった。前回オリンピック・パラリンピック開催地にあるアテネ日本人学校と連絡を取ったが、あまり参考にならなかった。そこで、プロジェクトチームを立ち上げることになったが、本来の校務分掌の主任は本業があり、プロジェクトリーダーを兼ねることは難しいということで、主任から降りている我々3年目の教員がプロジェクトリーダーとなった。前体育部長が中心となって「試合観戦(前述)」、前文化部長が「交流学習・競技団体の応援」、前研修部長(尾山)が「教材化」のリーダーを担うことになった。

(1) 大会前の練習としての施設の貸与

どの世界大会でも、大会直前でなく早目に現地入りし、気候などに体を慣らしながら、大会に臨むというのはよくあることである。しかし、オリンピック直前に使用できる施設に限られ、なかなか練習できなかったようである。実際、北京日本人学校が毎年、5・6月に使用していた民間のプールが、オリンピックの練習のため使えなく

なっただけである。

施設使用の申し込みがあったのは、女子バレーボールチームと女子ソフトボールだった。女子バレーボールチームは体育館で練習をしたが、ネット際からコーチがスパイクを打ち選手がレシーブする練習の際、コーチが専用の台でなく、とび箱に上がってスパイクを打っていたのが印象的であった。



練習が終わった後に、休日出勤していた教員と記念撮影  
(2列目左から2人目が上野投手、前列左端が尾山)

## (2) 選手との交流イベント

### ①女子ソフトボールチーム



1年生から贈られた金メダルを胸にかけて体育館を退場する選手



選手との対戦



ボールをいただきました

### ②女子車いすバスケットボールチーム



中学部生徒が音頭を取ってエールを贈る



花束の贈呈



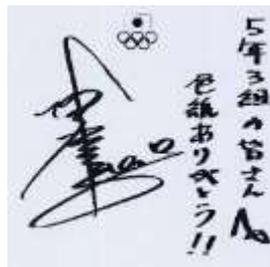
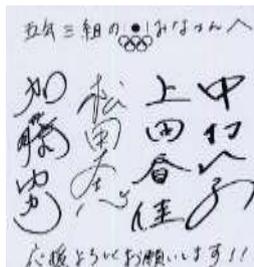
選手に見送られながらハイタッチで退場

## (3) 競技団体の応援

私が担任していた5年3組は、オリンピックでは「水泳」チーム、パラリンピックでは「ボッチャ」チームを応援することになった。オリンピック前の6月ごろに日本に行われる各競技団体が集まる会議宛に応援メッセージを送ることになった。オリンピック前の忙しい時期ということで、返事は期待してい



松田文志、上田春香、北島康介、加藤ゆか、中村礼子の各選手。加藤選手が持っているのが、5年3組が送った応援メッセージ、北島選手が持っているのが本人のサイン、上田選手が持っているのが残りの4人のサイン色紙。サイン色紙も学校に送られてきた。



なかった。すると、各競技団体から競技関係者(記憶に残っているのは野球の田淵元監督)の写真が送られてきた。そんな中、きちんと返事として、選手の写真とサイン入り色紙が送られてきたのは、我が5年3組が担当した「水泳」チームのみだった。

#### (4) パラリンピックを題材にした授業

前述したように、私は、前研究部長として「教材化」のプロジェクトリーダーを務めた。パラリンピアン生き様は道徳の授業に非常に適していると考えたし、現在のインクルーシブ教育的な発想での授業実践を先生方に呼びかけた。

一方、応援する競技団体のスポーツのルールについても簡単に学習した。

ジャックボールと呼ばれる白いボール(目標球)を投げた後、対戦する両者がそれぞれ赤と青の6球を投げ合い、自球をよりジャックに近づけたチームまたは個人が勝者となる。手で投げるのでできない選手はキック、あるいは競技アシスタントのサポートを受けながら、「ランプ」と呼ばれる投球補助具(勾配具)を使ってボールを転がすことができる。

(<https://www.parasapo.tokyo/sports/boccia> より引用)

当時は、ボッチャのルールを画像を使って学習したくらいだったが、昨年前任校でボッチャの体験学習を子どもたちといっしょに行い、難しい中にも楽しい競技だと感じ、北京日本人学校に在籍中に実践するべきだったと後悔した。

### 3. おわりに

オリンピック・パラリンピックは、言わずと知れた世界最高のスポーツイベントである。その試合をライブで観戦し、毎日のように世界のトップレベルのアスリートの競演を目の当たりにすることができたのは、北京で過ごした3年間のよき思い出の一つになった。私自身ばかりでなく、家族にとっても教え子にとっても同様ではなかろうか。

東京オリンピックが2020年から2021年に延期になったが、機会があればぜひ自分もライブで観戦したいと思っているし、オリンピックに限らず他の国際的な大会の機会があればぜひ観戦したい。

一方で気になったことがある。日本では、多くのファンは自分のひいきのチームを熱心に応援する。ファインプレーが出ると、たとえ相手チームであっても拍手を送るのが日本スタイルだと思っている。オリンピックの日本戦を見るまでは、中国の観客も同じだと思っていた。しかし、日本戦を見に行くと、日本選手がすばらしいプレーをしても、拍手を送ろうとしないし、ひどい時は、ブーイングを浴びせることがあった。

2004年のサッカーアジアカップ中国大会で日本が優勝したが、日本代表が多くの試合でブーイングを受けていた試合中継を覚えておられないだろうか。尖閣問題や小泉総理大臣の靖国神社参拝などの影響があったようだが、スポーツに政治を持ち込む多くの観客の姿には全く好感が持てなかった。この時ほどではなかったが、4年後のオリンピックも同じような雰囲気だった。普段は普通に接してくれる人たちがばかりだったのに、政治が絡んだ時の国際理解の難しさを痛切に感じた。



北京日本人学校の校舎